

石仏調査ニュース

ちがさきの石仏

第 7 号

発行 茅ヶ崎市文化資料館
 編集協力 文化資料館と活動する会
 (民俗行事部会)
 連絡先 〒253-0055
 茅ヶ崎市中海岸2-2-18
 TEL・FAX 0467-85-1733

茅ヶ崎の橋供養塔のこと

塩原富男

西光寺に移設された橋供養塔

赤羽根三二二番地(中赤)西光寺(浄土宗)の山門を入ってすぐ右、タ
 ブノキの下に市内唯一の「橋供養塔」
 が建っています。山状角柱形で高さ六
 三cm・幅一八cm・厚さ一六cm、銘文は
 表面に「橋供養塔」、左側面に「文化
 二丑年(一八〇五)壬(うるう)八月
 上村中」と彫られています。『新編
 相模国風土記稿』に赤羽根村の小名と
 して上・中・下と出ており、上村は赤
 羽根村の上、すなわち「上赤」をさす
 ものと思います。

この塔は現在地に移される前は、赤
 羽根二一六番地、コンクリート橋の
 北側の田んぼの南西隅の電柱に寄り添

うように建っていました。その位置は
 定かではありませんが、以前には橋の
 南にあったそうです。いまの橋に掛け
 替えられたのは昭和五十年代の初めこ
 ろと聞きました。

平成一〇年の六
 月ころ、地元有
 志の尽力により
 西光寺に移設さ
 れました。移設
 の理由は、長い
 間供養もされな
 い放置状態であ
 ったことに加え
 て赤羽根地区の
 土地改良事業が
 計画されたから
 だといえます。
 私が塔の存在
 を知ったのは、
 昭和五十九ころ



記念碑の調査をしていたときで、その
 ころは田んぼの隅の電柱に寄り添って
 建っていました。昭和六十二年の春こ
 ろに見たときは、田んぼの水口を塞ぐ
 ように横倒しになっていて泥に塗れて
 哀れな姿になっていました。そこで、
 田んぼの持ち主に話を聞いたところ、
 いつごろ、誰が何のために建てたもの
 かわからないまま、こどものいたずら
 で倒されることあり、つい粗末に扱っ
 たりしたが、百数十年も前に建てられ
 橋の供養塔であるなら大事にしなけれ
 ばと話され、元のように電柱に寄り添



西光寺に移設された橋供養塔

う形になりました。

橋供養塔の由来の私見

現在、この地域、西光寺の東から宝積寺の南にかけて大規模な土地改良事業が進行中で、耕地整理と道路の付替えなどが行なわれていて、様相が変わりつつあります。塔のあった田んぼも埋め立てられています。橋の架かっているところは、南北と東西の道の交わる所です。南の大山道からわかれた道を田んぼの脇を北に向くと赤羽根山のふもとから丘の上に出る窪地の道があり、この道沿いにむかし水路があったかも知れません。東西の道は大山道とほぼ並行していて、東に向くと宝積寺の南を経て藤沢市に入り大山道につづき、西は西光寺の南を抜け、甘沼境を通り大山道につながります。東西の道はムラとムラを結ぶ主要な道で、時には大山参りの人びとが足を運んだであろうとも思います。交わる南北の道がムラの境であるとすれば、橋は要の役割をしていたと考えられます。古い地図を見ても、この道筋はほとんど変わっていません。

山から橋までの水路はわからなくなっており、まして江戸末期の流れのありようはわかりませんが、おそらく幾筋かの赤羽根山からのしぼり水などを

あつめた小川の流れが、上から下へと段々に田んぼの間を流れて東西の道沿いに橋のところを集まって南流したのではないのでしょうか。小川の流れは橋から南約八〇m先を西流している赤羽根川に合流しています。

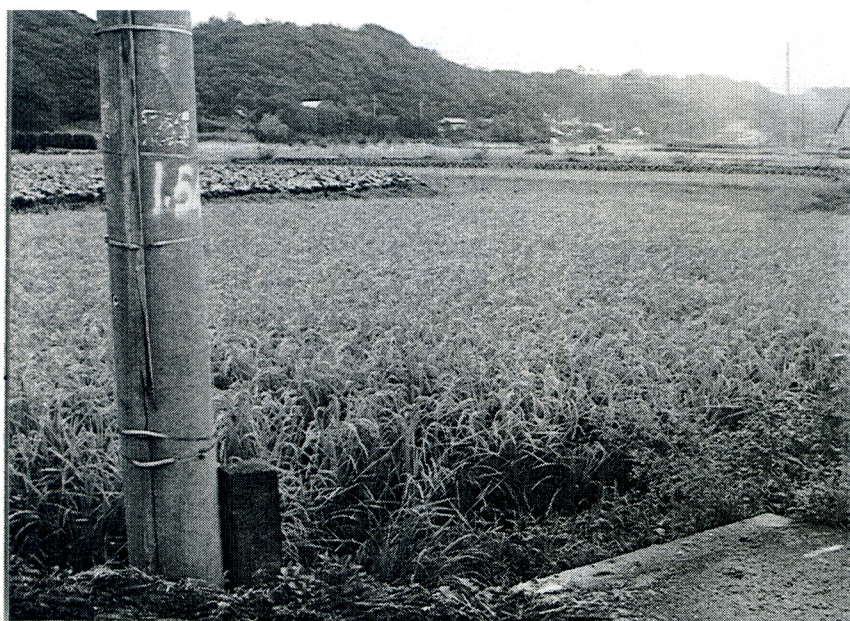
架けられた橋がどんな橋だったか、供養塔の造立者「上村中」にどんな事情があつたのか詳しくはわかりませんが、ムラとムラをつなぐ道にある橋は大水などで流されるなどの苦勞もあつたと思われ、そこで橋を石橋に架け替えることになり、そのとき橋供養が行なわれ、塔が造立されたのではないのでしょうか。ムラの人びとの気持ちがおもわれますが、長い間忘れられた存在だったようです。塔の由来などについて残された史料や塔にまつわる話がありましたらご教示ください。

石仏としての橋供養塔

人びとの暮らしのなかで、橋の果たす役割は大きく、川の大小にかかわらず、時代を問わず橋を架けるには

困難がともないました。石仏としての「石橋供養塔」については『日本石仏図典』(二四頁)では次のように説明しています。

「川が行政区域の境界になっているところが多いのは、昔からの村境・国境に基づくもので、境はさまざまの神



移設される以前に供養塔があった場所

霊や悪霊がたむろするところと考えられていた。

こうしたところに道路を造り、橋を架けるにはこれらの霊を供養し、鎮撫して工事の安全を祈るとともに、完成後は橋や道路の維持と、これを利用する人びとの行路安全を祈願して加護を得なければならなかった。

こうした気持ちを含めて、橋を架け替えたときや修理したときに供養を行い、造立したのが石橋供養塔である。板橋の場合は板橋供養塔であるが、橋のほとりに造立年代と造立者(個人または出資者全員、講などの共同体名)や、出資金額を彫った文字碑とか地藏、馬頭観音像を彫ったものや、庚申塔に「石橋供養」などの文字を彫って庚申塔と石橋供養塔を兼ねたものなどがあり、その橋を架けた年代を知る手がかりになる。」

多くの供養塔は道標を兼ね、信仰行為の社会性がうかがえるといえます。近在では、寒川町宮山の目久尻川の寒川橋の東の際に「庚申石橋供養/右国分寺道/享和三亥(一八〇三)九月日/講中/願主」として、一〇人の名を彫ったものがあります。

参考文献

- 『茅ヶ崎市明細地図』 明細地図社
- 『地図集・大地が語る歴史』茅ヶ崎市史現代七 茅ヶ崎市
- 「郷土ちがさき」八四号 (平成一〇・一・一) 茅ヶ崎郷土会
- 『日本石仏図典』 日本石仏協会編 国書刊行会

時間が止まっている石

総合学習に参加して

加藤幸一

今年も市内の小・中学校の総合学習で、児童・生徒との出会いがあり、地域学習の一端を担当しました。

「地域の石仏を知る」、「石碑の文字を読み、地域の歴史を知る」といった内容を中心に話をし、併せて、その地域の特色あることがらについても話をしました。

学習の方法は違いますが、地域学習の手段として各学校では、創意工夫をされており、先生方の日頃の努力に頭

が下がります。

共学した児童・生徒の体験した感想の一部を紹介します。

○石碑は見方を変えれば、地域の歴史が分かる大事な文化物(財)というところが分かりました。

○大きい石碑、小さい石碑、いろんな模様・文字があつて、たくさん石碑を見ることができました。初めて長い時間、石碑を見ました。

○石碑を見た時は、ただの「石の板」だと思っていたのですが、その中に書かれているのは、いろいろな歴史がぎざぎざまれていることが分かり、「時間が止まっている石」に見えました。

○江戸時代にこの地域が重要な位置にあると聞き、この地域が好きになり、この地域の学校に通う私は、幸せなのだ。あと一八〇度変わりました。こんど、道祖神を見に行きたいです。

多くの児童・生徒と出会い、なにより嬉しいことは、地域を知ろうという探求心に触れたことで、感激しました。私もこれからも「時間が止まっている石」と対話を続けていきたいと思っています。

調査済み石仏一覧(平成11年8月~平成12年6月)

調査日	調査場所	所在地	名称	造立日(西暦)	西暦	分類
平成11年8月20日	満福寺	萩園1632	宝篋印塔	寛保元年	1741	
平成11年9月17日	松尾大神	今宿586	庚申塔	延宝8年	1680	板碑形
平成11年9月17日	松尾大神	今宿586	道祖神	なし		石祠
平成11年9月17日	御嶽堂	矢畑246先	手洗石	文久2年	1862	
平成11年9月17日	松尾大神	今宿586	手洗石	明治35年9月	1902	
平成11年10月15日	松尾大神	今宿586	庚申塔	貞享4年	1687	笠付き像・文字
平成11年10月15日	松尾大神	今宿586	石燈籠(対)	向かって右明治45年3月・向かって左大正4年	1912	
平成11年10月15日	松尾大神	今宿586	標石	なし		自然石
平成11年10月15日	松尾大神	今宿586	標石	昭和47年	1972	自然石
平成11年10月15日	松尾大神	今宿586	手洗石	大正9年2月	1920	
平成11年11月19日	信隆寺	今宿841	釈迦如来	貞享2年	1685	光背形像
平成11年11月19日	駐車場内	今宿496	風邪神	なし		丸彫坐像
平成11年11月19日	信隆寺	今宿841	石祠	銘なし		流造
平成11年11月19日	共同墓地内	今宿828	六地藏	安永9年9月16日	1780	石幢
平成11年11月25日	輪光寺	円蔵2238	弘法大師	なし		丸彫
平成11年11月25日	了覚院	円蔵2174	巡拝塔	寛政7年11月	1795	角柱文字塔
平成11年11月25日	輪光寺	円蔵2238	庚申塔	康永17年	1640	光背半肉彫
平成11年11月25日	輪光寺	円蔵2238	庚申塔	元文4年	1739	笠付き像
平成11年11月25日	路傍	円蔵2163先	道祖神	なし		光背像・双
平成11年11月25日	輪光寺	円蔵2238	二十三夜塔	弘化4年	1847	笠付き像・文字
平成11年11月25日	輪光寺墓地	円蔵2238	猿像	寛文12年	1672	丸彫坐像
平成11年11月25日	輪光寺墓地	円蔵2238	山王社	寛文12年	1672	石祠
平成11年11月25日	輪光寺	円蔵2238	六地藏	享保15年	1730	光背
平成11年12月17日	眞光寺	円蔵2-8-10	弘法大師	文政3年	1820	丸彫
平成11年12月17日	大橋精機製作所裏	円蔵278先	法界塔	天保6年7月吉日	1835	駒形文字塔
平成11年12月17日	神明大神	円蔵2282	鳥居	昭和45年12月吉日	1970	神明
平成11年12月17日	個人宅地内	円蔵2401	庚申塔	大正11年	1922	角柱文字
平成11年12月17日	路傍	円蔵87先	道祖神	安永5年	1776	光背形像・双
平成11年12月17日	神明大神	円蔵2282	道祖神	安永8年	1779	角柱文字
平成11年12月17日	路傍	円蔵1291先	道祖神	明治37年	1904	角柱文字
平成11年12月17日	路傍	円蔵2-13-61先	石祠	なし		笠付
平成11年12月17日	路傍	円蔵2-13-61先	山王権現	基部・元禄14年、笠部・慶応4年	1701	石祠型
平成11年12月17日	路傍	円蔵2-9-16先	山王権現	元禄12年	1699	石祠型
平成11年12月17日	路傍	円蔵2-9-16先	石祠(残欠)	なし		
平成11年12月17日	路傍	円蔵2-15-47先	聖観音菩薩	宝暦5年	1755	光背形像
平成11年12月17日	路傍	円蔵2116先	大庭景能供養塔	大正15年10月9日	1926	角柱
平成11年12月17日	神明大神	円蔵2282	手洗石	明治10年9月23日	1877	
平成11年12月17日	神明大神	円蔵2282	手洗石	昭和57年2月	1982	
平成12年3月17日	鳥入共同墓地路傍	萩園166先	馬頭観音	元治元年	1864	角柱文字
平成12年3月17日	鳥入共同墓地路傍	萩園166先	馬頭観音	なし		櫛型文字
平成12年3月17日	常願寺	萩園1441	題目塔	安永9年7月13日	1780	櫛型文字
平成12年3月17日	鳥入共同墓地	萩園166	地藏菩薩	不明		丸彫立像
平成12年3月17日	八幡宮	柳島2-3-10	庚申塔	万治3年	1660	笠付き像
平成12年3月17日	路傍	萩園1415先	道祖神	明和7年	1770	光背形像・双
平成12年3月17日	第六天社	萩園1228	道祖神	昭和38年	1963	櫛型文字
平成12年3月17日	共同墓地	萩園(鳥入)166	地藏菩薩	昭和6年	1931	光背浮彫立像
平成12年3月17日	共同墓地	萩園(鳥入)166	地藏菩薩	不明		丸彫立像
平成12年3月17日	路傍	萩園1861先	地藏菩薩	なし		光背浮彫
平成12年3月17日	路傍	西久保717先	地藏菩薩	寛政元年	1748	丸彫立像
平成12年5月19日	八王子神社	本村4-13-40	狛犬	昭和12年8月吉日	1937	丸彫一對
平成12年5月19日	八王子神社	本村4-13-40	廻国塔	文化4年12月吉日	1807	角柱文字
平成12年5月19日	八王子神社	本村4-13-40	鳥居	昭和2年4月吉日	1927	明神
平成12年5月19日	八王子神社	本村4-13-40	鳥居(残欠)	不明		
平成12年5月19日	八王子神社	本村4-13-40	道祖神	安永5年	1776	光背型双体像
平成12年5月19日	八王子神社	本村4-13-40	石燈籠	慶応3年丁卯3月吉辰	1867	
平成12年5月19日	八王子神社	本村4-13-40	手洗石	文政2年11月	1819	
平成12年5月19日	八王子神社	本村4-13-40	手洗石	昭和12年8月	1937	
平成12年6月16日	観音堂	本村5-6-53	弘法大師	文政3年	1820	丸彫坐像
平成12年6月16日	北茅ヶ崎三島神社	茅ヶ崎3-3-1	狛犬	なし		丸彫阿形